

保存

まき え

# 蒔絵の名品とその意匠



# まき え 蒔絵の名品とその意匠

福井市立郷土歴史博物館編

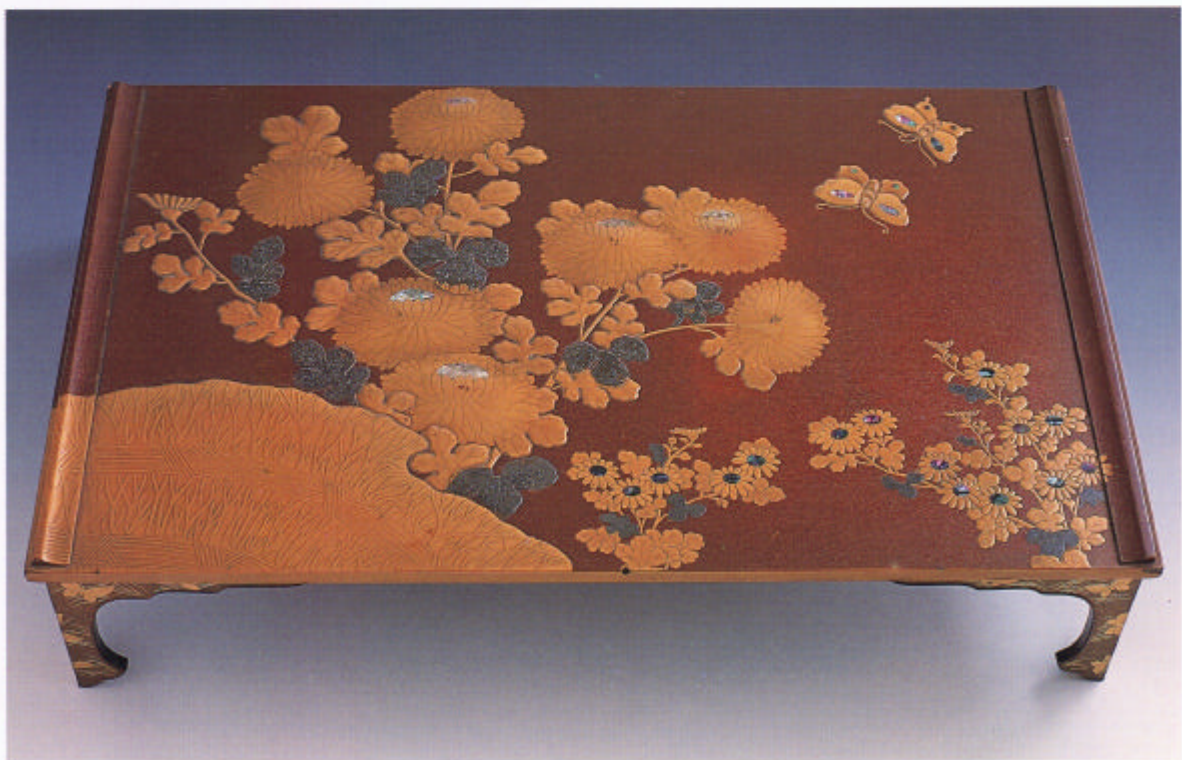
## 凡 例

- 一、本書は、平成四年十月一日～十一月三日迄を会期として開催した、秋季特別展「蒔絵の名品とその意匠」の解説図録である。
- 一、収録作品は、その用途により「馬具・武具」「文台・硯箱・料紙箱類」「飲食具」「その他の調度」「装身具」に分類し、解説してある。
- 一、前半部に主要作品の写真を収め、後半部には全作品の解説を、分類の順に配列してある。
- 一、解説は、原則として作品名・数量・寸法・解説・所蔵者名の順に記述してある。寸法は、すべてセンチメートル、縦×横の順である。
- 一、所蔵者名は、本館の収蔵品については「越葵文庫蔵」「福井市春嶽公記念文庫蔵」の外、「〇〇市〇〇〇氏贈」「寄託品」として寄贈品・寄託品の別を示した。また、今回の特別展に限って諸家より借用した品々については、「〇〇市 〇〇〇蔵」等と表記してある。
- 一、収録作品に付した番号は、図版・解説に共通している。





①菊花蝴蝶模様蒔絵鞍・鐙



⑨ 菊花蝴蝶模様金蒔絵文台・硯箱





①扇模様蒔絵料紙箱・硯箱



㊟鉄線蒔絵膳



㊟鉄線蒔絵飯器

㊟鉄線蒔絵湯桶



⑩ 澤布眺望園蒔絵桑製小籠箱







⑤梅花山雞模様蒔絵見台





㊦ 金沃懸地松鶴鹿図蒔絵印籠



㊧ 金沃懸地堅田落雁蒔絵印籠

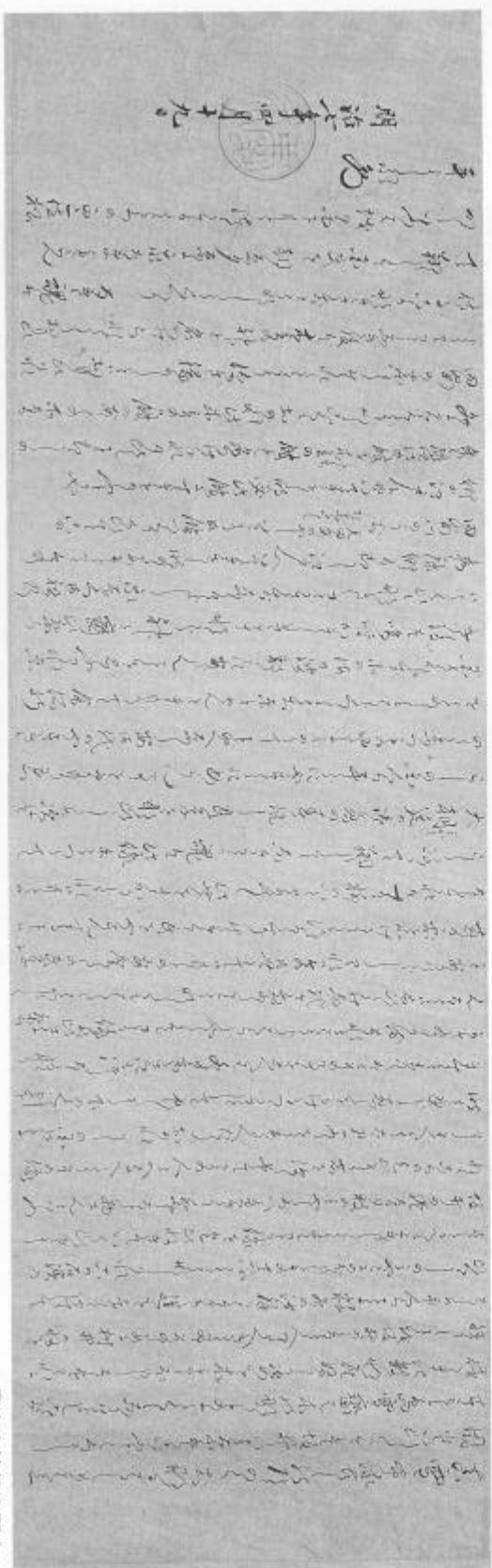


㊨ 牧童蒔絵印籠





②梅鉢葡萄蒔絵鞍



⑤木立神社立願文

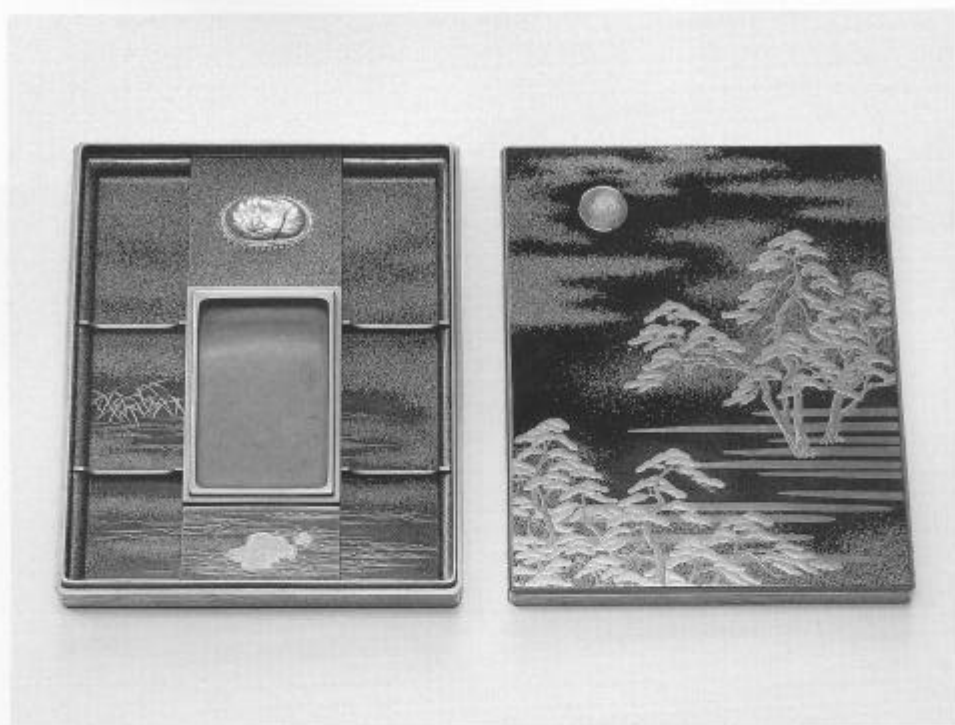


⑤家紋蒔絵太刀拵

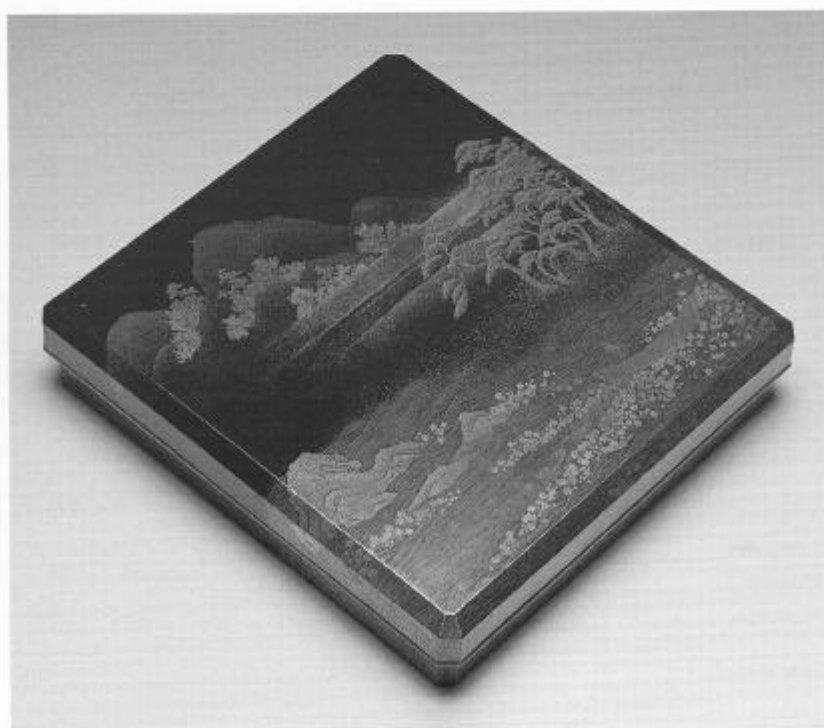




⑩七宝丸尽蒔絵料紙箱



⑬月に松原模様蒔絵硯箱



⑭御手沢蒔絵御硯箱

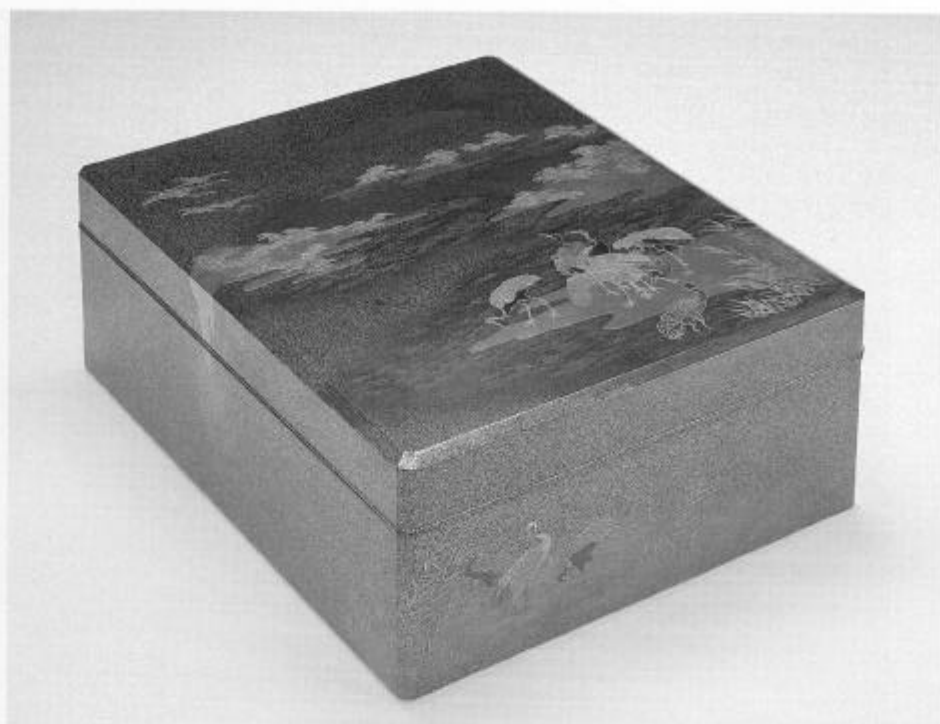




⑬紫陽花蜻蛉模様蒔絵手箱



⑭梨子地和歌浦蒔絵硯箱



⑰ 梨子地和歌浦蒔絵料紙箱



⑰ 梨子地和歌浦蒔絵文台





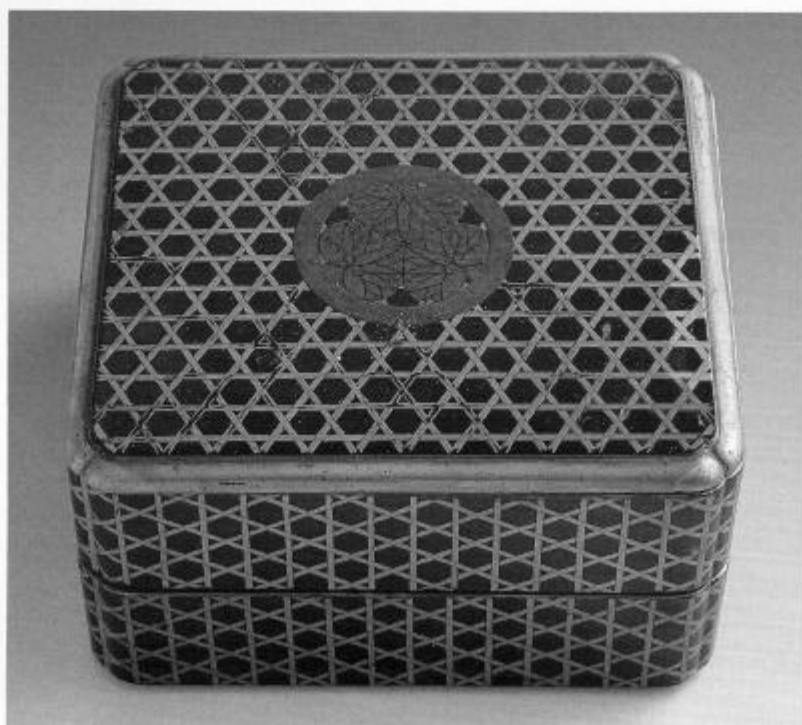
㊸ 入船松鶴模様蒔絵文台・硯箱

㊹ 吉野山桜花蒔絵文台・料紙箱・硯箱

㊺ 金沃懸地朝顔蒔絵パイプ



⑤ 葵紋付飯櫃



⑥ 籠組模様蒔絵紋付重箱



② 葵紋散菊花唐草模様蒔絵重箱

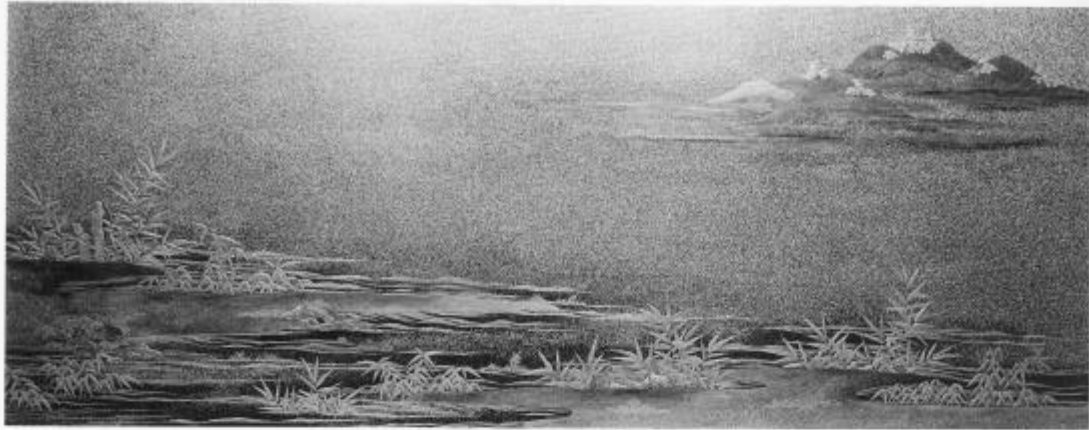




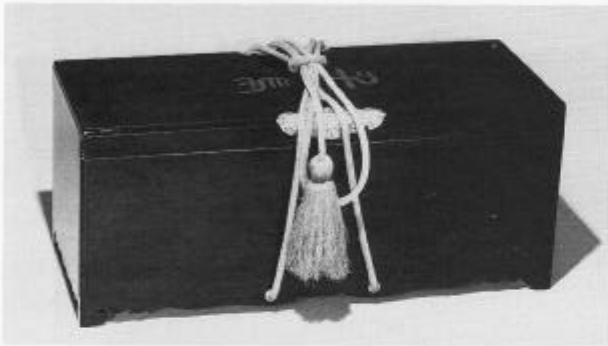
⑨村梨子地芙蓉雀模様蒔絵提重



⑩涛に龍模様蒔絵酒盃



㊸「千鳥」の琵琶箱・水辺草原模様蒔絵蓋



㊹葵紋散牡丹唐草模様蒔絵香道具



②四季花模様蒔絵火屋付き手焙





⑫ 梨子地菊水模様蒔絵「源氏物語」書箱



⑫ 梨子地菊水模様蒔絵「源氏物語」書箱(部分)



④ 蘇絵化粧道具



⑤ 黒燻色塗地秋草虫模様  
蒔絵袖机・針箱







㊦ 入船模様蒔絵印籠



㊧ 山水模様蒔絵印籠



㊨ 群鶴模様蒔絵印籠



㊩ 唐獅子牡丹模様蒔絵印籠

## 解説

### 馬具・武具

#### ①菊花蝴蝶模様蒔絵鞍・鐙

一具

前輪高二八・〇 後輪高二六・〇 居木長三〇・九

鐙 長二九・五 鐙 高二六・六 鐙 幅 八・五

〔四五〇〕  
「宝徳二年乾月十六日 貞仲(花押)」の刻銘があり、室町中期伊勢国の鞍師の作である。菊の花や蝴蝶をあしらった豪華な蒔絵は、江戸時代中期のものと考えられる。

越葵文庫蔵

#### ②梅鉢葡萄蒔絵鞍(福井県指定文化財)

一背

前輪高二六・七 後輪高二五・〇 居木長三〇・五

〔五九六〕  
「文禄五申十月(花押)」の墨書銘があり、府中(武生)領主本多富正が、大坂夏の陣(元和元年・一六一五)の戦利品として奉納したものと伝えられる。

蒔絵の葡萄文様は、桃山時代に好まれた意匠の一つで、雅趣に富んだものとなっている。

武生市 大塩八幡宮蔵

#### ③葵紋付昇龍模様蒔絵鞍

一背

前輪高二七・六 後輪高二六・九 居木長三〇・四

〔六九九〕  
「万治二年八月吉日(花押)」の刻銘があり、その製作年代から福井四代藩主松平光通の所用と考えられる。

越葵文庫蔵

#### ④金梨子地葵紋蒔絵乗馬用鞭

一柄

長九六・二

#### ⑤家紋蒔絵太刀拵(福井県指定文化財)

越葵文庫蔵  
一腰

長八七・六

刃長五四・五 反り一・六 銘「守次」(南北朝時代)

旧福井十六代藩主松平春嶽奉納の太刀(一般に小太刀と呼ばれる)で、梨子地の鞘に家紋を散らした優品である。

明治六年(一八七三)、三国出身の木彫家島雪齋は、東京で旧主春嶽の木像を彫刻し、春嶽に献上した。これを伝え聞いた三国町民有志は、この木像を三国神社(当時桜谷神社)に祭るため下賜を願い出、町民の願いを入れた春嶽が同七年四月、木像に立願文と太刀を添えて奉納したものである。

三国町 三国神社蔵

#### 木立神社立願文(福井県指定文化財)

一卷

二九・二×九五・〇

真雪ふるこしの道のくちなるはしめは三国といひしか今は坂井のみなど、いふところすみし島雪齋は木の彫りものにたくみなりけらしこたみ賤たまき数ならぬわか姿を木もてほりしそをわれに贈りしことを坂井のみなど人つたへき、てそのために村井の取をはしめ市人らことに粕谷の沙庭もはるけき道を遠しとせずしてひんかしのみやこにのほりしその真心こそうれしけれこの石浜のすみかへも参りしよりてわか像を乞ひねきていくひさに坂井の港なる日枝のみやしるへ置きて祭りなと物せんといふねもころの乞ひそか志を深く愛て、かの人々へ与へたりその像にそへて太刀一ふりをもあたへたりおのれこしの国をしる時は民に恵みをかけるつかさとして中々に下のくる

しみをますこと多く今もその事を思へは冬の寒さにも汗なかる、斗りにそ有けるそれとはうらはらとやらにてわか像をひさに祭らんなど、ハ思ひかけなきさちにしてうれしくもはたはつかしくもありけらしわれハ今の御世にてハもとのあかたの民草に恵の露をかけることも得ならず生きて民をやすんすることハならされは青柳のいとせめて此世をまかりたれハもとのこし路へ天翔りしてなきわか魂は此像にうつりて大朝廷の御恵の春風に民草をなひかしめ次にはこしの国人ら平らにやすらにあらん事をまもり五つのたなつものゆたにみのりてことゆへなく安御代のやすきをたのしみはらつ、みうちなとせんとまもりて余所の国はしらす北の海の波静かにあらんことを思ふわれなき後は嗚呼かましき事ながら神と齋ひ祭らハたくひもなきわかさちなりけらし我遠つ御祖の秀康卿はむかし江戸へいてませし時のためにとて今の田安門のうち(元田安のやしきなるへし)公より御館つくり給ひてこの卿の江戸え御いてませし時ハ必此館にすませ給ふとかや秀康卿此御館を木立の館と名つけられ給ひしことむかしの文に見えたりかしこくもおのれ此木立の御館のあとの所なる田安の家に生れたるこそ深き縁にしとハおもひけれよりてわかなき後は木立の神と名つけられたくおもひ侍ることなきさちとうれしう思へり なき魂は天翔りして国民を朝な夕なに我はまもらん

かくいふは越の国をもとつかさるところの正二位松平よし永(花押)

明治七年四月十九日(印)

⑥金梨子地葵紋蒔絵薙刀鞘 一点

長五二・八 (薙刀 長八九・三 刃長四七・五)

薙刀(銘)「上野□守藤原国常」

付紙に「浅姫様御用 御長刀」とあり、福井十四代藩主松平齐承夫人浅姫(十一代將軍家齐女)所用の薙刀であることが知られる。

越葵文庫蔵

⑦黒蠟塗菊唐草九曜紋蒔絵薙刀鞘

長五一・六 (薙刀 長七二・〇 刃長四〇・三)

薙刀(銘)「上野介源吉正」

越葵文庫蔵

⑧黒蠟塗菊唐草九曜紋蒔絵薙刀鞘

長四七・〇 (薙刀 長八五・三 刃長四二・〇)

薙刀(銘)表「寛文六年八月於撰府城下作之」／裏「粟田口近江守忠綱」

一点

⑦⑧は、幕末の福井藩主松平春嶽夫人勇姫(熊本藩主細川齐護女)所用の薙刀で、鞘に九曜紋が蒔絵されている。

越葵文庫蔵

#### 文台・硯箱・料紙箱類

⑨菊花蝴蝶模様金蒔絵文台・硯箱 一具

文台三六・四×六〇・二×一一・八

硯箱二六・〇×二三・〇×四・二

福井七代藩主松平吉品(五代昌親再勤 探源院)生母高照院(浦上内記宗春女)の遺愛品と伝え、菊花や蝴蝶の蒔絵が美しい。



瑞源寺は臨濟宗妙心寺派、探源院・高照院の菩提寺として知られる。

⑩七宝丸尽蒔絵料紙箱

四一・〇×三二・〇×一四・五

福井市 瑞源寺蔵  
一合

天保九年（一八三八）十一月、松平春嶽（時に十一歳）が福井藩主就任の際、前將軍家斉夫人茂姫（広大院）より拝領したものである。

（箱書）

福井市春嶽公記念文庫蔵

天保九年戊戌十一月二十三日慶永十一歳従田安家常盤橋邸へ引移り之朝本丸へ登城家斉公家慶公へ謁見之節広大院殿家斉公正姫 目見之折直ニ親自賜余ニ是爲永世宝距今凡四十年追懐往事而不止

明治十一年戊寅十月十二日

正二位 松平慶永書

「家譜」百七十七 天保九年十一月廿三日条（抄）越蔡文庫

大御台様御料紙箱一蒔絵蒔絵 御硯箱蒔絵御手自御拝領

⑪扇模様蒔絵料紙箱・硯箱

一具

料紙箱三九・八×三二・一×一六・〇

硯箱二三・五×二〇・八×五・六

硯箱中の墨ばさみ・筆軸等に施された九曜紋から、福井十六代藩主松平春嶽夫人勇姫（熊本藩主細川斉護女）の輿入道具であることが知られる。勇姫は嘉永二年（一八四九）十一月婚姻、明治二十年（一八八七）一月逝去。婚約中、疱瘡のため頬に痘痕が残り、細川家では婚約の解消を申し出たが、

春嶽は変更すべき理由なしとして、暖かく迎え入れた。そのため細川家では、勇姫の輿入道具に費用を惜しまなかったという。この両品も、そうした逸話を裏付けるような豪華さである。

⑫躍鯉蒔絵引出き硯箱

二六・八×一四・二×一五・一

福井市春嶽公記念文庫蔵  
一合

將軍継嗣問題・対外条約問題をめぐる井伊直弼との政争に敗れ、隠居急度慎の嚴罰に処せられた松平春嶽が、受諱当日の安政五年（一八五八）七月五日、忠勤を尽した側近の一人、橋本左内に与えた常用の硯である。

硯箱中には、春嶽が使用していた当時のままに、筆墨・便箋等が収められ、心尽しの小判二枚が「橋本江」と表書した包紙と共に、手付かずに保存されている。

福井市春嶽公記念文庫蔵

⑬月に松原模様蒔絵硯箱

二四・五×一九・七×四・二

一合

福井市春嶽公記念文庫蔵

⑭老松模様蒔絵硯箱

二三・〇×一八・〇×三・五

一合

「辛未五月 百穂（印）」の銘がある。

寄託品

⑮紫陽花蜻蛉模様蒔絵手箱

二四・〇×一九・〇×七・〇

一合

大正五年（一九一六）九月、侯爵井上馨の遺品として、松平慶民（春嶽嫡男）夫人幸子きんこに贈られたもので、嗣子井上勝

之助の添状が付属している。

幸子は、明治二十四年（一八九一）新田男爵家に生まれ、井上馨家の養女となった。ベルリンやロンドンに学び、同四十四年松平家に嫁した。

寄託品

（添状）

一 蒔絵紫陽花蜻蛉手箱

右亡父馨遺物トシテ贈呈致候間御受納被下候ハ、本懐之

至ニ御座候勿々敬具

大正五年九月八日

井上勝之助

松平幸子殿

⑯金沢懸地菊花模様蒔絵手文庫

二五・五×二一・〇×一三・五

一合

昭和二年（一九二七）七月二十日、式部官松平慶民（春嶽嫡男）が昭和天皇より拝領したものである。

福井市春嶽公記念文庫蔵

⑰梨子地和歌浦蒔絵文台・料紙箱・硯箱

文 台三四・五×六〇・〇×一一・〇

一具

料紙箱四二・一×三三・〇×一五・一

硯 箱二四・八×二二・五×五・二

昭和二十三年（一九四八）六月、宮内府長官を退任した松平慶民（春嶽嫡男）の拝領品で、詳細は目録に添付された慶民自筆の由緒書によって知ることができる。

蒔絵の図柄は、万葉歌人山部赤人の歌「若の浦に潮満ち来れば潟をなみ葦辺をさして鶴鳴き渡る」に代表される和歌浦

（紀伊）の景観を意匠化したもので、葦辺を指して飛ぶ鶴の姿が描かれている。

福井市春嶽公記念文庫蔵

（由緒書付）

昭和二十三年六月五日宮内府長官退官

同六月十日御文庫に於て御相伴（新旧長官

新旧侍従長）の前侍従職に於て侍従次長を

経て 両陛下より下賜

御目録の通り

外に御文庫御学問所に於て

御手沢蒔絵御硯箱親しく下賜ありたり

慶民謹記（花押）

⑱御手沢蒔絵御硯箱

二三・七×二二・〇×四・五

一合

⑰と同様、松平慶民（春嶽嫡男）の拝領品である。その格調高い蒔絵は、蓋裏に添えられた「花さそふひらの山かせふきにけりこき行舟のあとみゆるまで」の歌（源師光女／新古今和歌集 一二八）を意匠化したものである。

寄託品

（由緒書付）

昭和二十三年六月五日宮内長官退官

同 六月十日御文庫に於て

御相伴の節同所御学問所に於て

聖上より親しく賜る

一 御手沢蒔絵御硯箱

慶民謹記（花押）

⑱ 春之長閑菜花模様蒔絵文台・硯箱 一具

文台三四・二×五六・七×一〇・八

硯箱二三・五×二〇・九×四・四

高松宮宣仁親王殿下の御遺品で、辻村松華作。

松華は漆芸家・蒔絵師。帝展入選作家として活躍。昭和四年（一九二九）六十一歳で歿している。

寄託品

⑳ 吉野山桜花模様蒔絵文台・料紙箱・硯箱（玩具） 一具

文台七・〇×一・六×二・〇

料紙箱八・一×六・八×三・五

硯箱五・五×四・九×一・四

福井十六代藩主松平春嶽の遺愛品で、玩具ながら本式の蒔絵が施されている。

寄託品

㉑ 入船松鶴模様蒔絵文台・硯箱（玩具） 一具

文台六・八×一三・四×二・七

硯箱四・九×三・七×一・一

松平春嶽夫人勇姫の遺愛品。

福井市春嶽公記念文庫蔵

### 飲食具

㉒ 鉄線蒔絵膳（小浜市指定文化財） 一具

懸盤（大）四四・七×四六・三×二五・一

（中）三九・九×四一・二×二二・〇

（小）三四・九×三六・一×一九・九

小浜市 心光寺蔵

㉓ 鉄線蒔絵飯器（小浜市指定文化財） 一合

径二二・七×高二二・〇

小浜市 心光寺蔵

㉔ 鉄線蒔絵湯桶（小浜市指定文化財） 一個

径一五・〇×高一五・四

小浜市 心光寺蔵

⑳、㉑は、小浜藩主酒井忠勝夫人心光院（寛永十八年歿）所用の蒔絵膳で、懸盤（三枚）ほか、椀、飯器、湯桶などが揃っている。

心光寺は常照山と号し、浄土宗。寛永七年（一六三〇）京極忠高夫人孝安院の牌所として建立され、のち心光院の牌所となり現寺号となった。

小浜市 心光寺蔵

（箱書）

心光院殿御膳筥

当百年御忌

寄附

皆元文五庚申稔

三月十四日 順誉代

〔別紙〕 布巾一付 方誉代より

㉕ 葵紋付飯櫃 付、飯匙 一合

径二二・六×高一八・四

松岡町 安泰寺蔵

㉖ 籠組模様蒔絵紋付重箱 一合

二一・五×二三・五×一三・一

㉗ 安泰寺の什物で、松岡藩祖松平昌勝（寛永十三年）元禄六年）ゆかりの品である。



安泰寺は隆芳山と号し、浄土宗。昌勝の実父で福井三代藩主松平忠昌（隆芳院）の菩提を弔うため、万治元年（一六五八）に創建された。開山は泰存上人。（箱蓋裏）

旧松岡公寄附 当山第四世  
利空上人代

重箱 式個 籠組模様  
卷絵紋附

葵紋紋附飯櫃 壹個

吉田郡松岡字台

隆芳山安泰寺什物

②⑦ 葵紋散菊花唐草模様蒔絵重箱

二六・七×二九・七×四二・五

福井藩主松平家伝来の品で、大名道具にふさわしく豪華なものである。

一合

越葵文庫蔵

②⑧ 蝟色地網に桜花模様蒔絵重箱

一九・八×二一・三×二七・六

福井十六代藩主松平春嶽ゆかりの品で、蓋裏に金泥で春嶽の「丁字印」が付されている。

一合

福井市春嶽公記念文庫蔵

②⑨ 梨子地藤棚四季草花模様蒔絵提重

二八・三×二九・二×一六・五

提重は花見など行楽時の飲食具で、重箱・酒器・小皿などが一箱に収納され、携帯可能に工夫されている。本品は比較的小振り、藤棚模様を中心に四季の草花が上品に蒔絵されている。

一式

福井市春嶽公記念文庫蔵

③⑩ 村梨子地芙蓉雀模様蒔絵提重

二五・〇×四〇・〇×四三・〇

福井十六代藩主松平春嶽所用の提重で、重箱・角盆・徳利・角小皿・朱盃などが組込まれている。

一式

福井市春嶽公記念文庫蔵

③⑪ 玉川蒔絵菓子箆筒

一八・五×一五・三×一五・三

落雁などの干菓子を納めた小箆筒で、外箱に福井十六代藩主松平春嶽所用の調度であることを示す「丁字印」の朱印がある。

一基

蒔絵の図柄は、古歌に詠まれた三島の玉川（撰津）・井手の玉川（山城）・野路の玉川（近江）・高野の玉川（紀伊）・調布の玉川（武蔵）・野田の玉川（陸奥）の、いわゆる「六玉川」を意匠化したものである。

福井市春嶽公記念文庫蔵

③⑫ 涛に籠模様蒔絵酒盃

径八・六

「桃園齋」の銘がある。弘化三年（一八四六）四月、福井十六代藩主松平春嶽が越前へ初入国するに先立ち、田安邸に実父齊匡を訪問した際の別盃である。

一口

福井市春嶽公記念文庫蔵

（箱書）

弘化三年丙午四月廿八日御入国御発程ニ付廿七日田安第江御暇乞被爲入御吸物御酒出候節一位様御酒被召上其杯を殿様江御差被遊候其節之御杯

③⑬ 鶴・亀模様蒔絵酒盃

二口

径九・〇／八・五

「梶川作（印）」の銘がある。梶川は幕府御抱の蒔絵師。

福井市春嶽公記念文庫蔵

（箱書）

文久四甲子正月十九日京都二條城於御城御頂戴

③④ 芦に羽鶴・秋草に虫模様蒔絵天賜酒盃

二口

径八・五／八・三

慶応四年（一八六八）閏四月廿日・同八月十三日、松平春

嶽が明治天皇より拝領した酒盃である。

福井市春嶽公記念文庫蔵

（箱書）

芦二羽鶴

御盃 閏四月廿日 御拝領

秋草二虫模様

御盃 八月十三日 御拝領

右慶応四年戊辰年

③⑤ 松に鶴・竹に雀・梅に鶯模様蒔絵酒盃

三口

径一〇・八／九・七／八・五

明治二十一年（一八八八）十月十日、松平茂昭が主催した養父春嶽の還暦・昇叙（従一位）の祝宴で、春嶽に贈られた祝盃である。松平家扶鈴木準道の由緒書が付属している。

福井市春嶽公記念文庫蔵

（由緒書）

三ツ組御杯 壺箱

此御杯ハ従一位慶永公即当家御承嗣ハ天保九年ニシテ即本年既二五十年ニ及ベリ其間公ノ国事ニ御尽力在セラレ

タル御成績ニヨリテ当春ハ御当家ノ御家格モ進ミ亦去月

十日ハ全従一位ノ極位ニ昇ラセラレ実ニ御当家無比ノ御

名譽タルヲ以テ正三位茂昭卿幾子君ニモ御歡喜ノ餘リニ

本月本日ハ公ノ御誕節ノ御祝日ナルヲ以テ当邸邸江公ヲ

御招待アリテ公ノ尤モ御親愛ナル御旧臣数名ヲ御招キア

リテ大ニ御祝宴ヲ開カセラル、時公ノ万歳ヲ寿セントテ

此御杯ヲ御進呈アリシカハ公御杯ヲ取セラレ御祝アリシ

御祝杯也

明治二十一年十月十日

鈴木準道謹書

### その他の調度

③⑥ 「千鳥」の琵琶箱 水辺葦原模様蒔絵蓋

一点

箱七四・六×三一・〇×三一・四

伝、太田道灌所用の琵琶で、福井藩老太田安房守から福井初代藩主結城秀康に献上されたものと伝える。蓋裏の蒔絵は、「千鳥」にふさわしく水辺の葦原が描かれている。

越葵文庫蔵

③⑦ 葵紋散牡丹唐草模様蒔絵香道具

一具

松平家伝来の品。十一代將軍家齊の女で、福井十四代藩主齊承夫人となった浅姫の輿入道具かと思われる。

福井市春嶽公記念文庫蔵

③⑧ 梅花山雞模様蒔絵見台

一基

台面三二・〇×四五・五 高三七・三

十一代將軍家齊所用の見台で、福井十四代藩主松平齊承、同十六代春嶽（慶永）へ伝えられたものである。

寄託品

(箱書)

天保十三年壬寅臘月十七日越侯慶一朝臣之所賜也実先侯

天梁君齊一朝臣受之にお大樹文恭公云

癸卯臘月九日 源 直準謹識

③村梨子地葵紋散煙草盆

一六・七×二八・二×二四・二

一具

箱内側に「明治六年十二月三日阿部様ヨリ清心院様御遺物トシテ御前様へ被進」の由緒書付があり、老中阿部正弘夫人清心院の遺品であることが知られる。

清心院は名を謚(また慎)といい、天保八年(一八三七)

十月、松平日向守直春の女として江戸に生まれた。嘉永六年

正月、松平春嶽の養女となり、同年十一月、阿部正弘に嫁し

た。明治六年(一八七三)十月、三七歳で歿す。

越葵文庫蔵

④瀑布眺望図蒔絵桑製小簞笥

四五・五×四二・〇×二九・〇

一基

全体として渋い感じの小簞笥だが、中段右手の鍵付きの開戸をあけると、豪華な蒔絵が目に入る。江戸中期第一の蒔絵の名手と評された古満巨柳と、十代將軍家治の寵遇を受けた絵師狩野典信(栄川)の合作である。巨柳や栄川の活躍期からいって、一橋家出身の福井十二代藩主松平重富が、將軍家より拝領の品かとも推定される。

福井市春嶽公記念文庫蔵

④四季花模様蒔絵火屋付き手焙

径二二・六×高二七・二

一具

梅・桜・牡丹・菊・椿など、四季の花を美しく蒔絵し、七

宝模様を銀象眼した火屋をのせるなど、すみずみまで細かな意匠をこらした一人用の小型木製火鉢である。

福井市春嶽公記念文庫蔵

⑫梨子地菊水模様蒔絵「源氏物語」書箱

二七・五×三八・五×二二・〇

一箱

梨子地肌の随所に、九曜紋のかたちに金粉を抜いた箇所があることから、熊本細川家より福井十六代藩主松平春嶽の許に嫁した勇姫の輿入道具であることが知られる。

越葵文庫蔵

⑬村梨子地九曜紋散牡丹唐草模様蒔絵衣桁

一五五・〇×一八二・五

一式

福井十六代藩主松平春嶽夫人勇姫の輿入道具で、熊本細川家の九曜紋が蒔絵されている。

越葵文庫蔵

⑭蒔絵化粧道具

鏡台(巾) 二七・三×(高) 六五・〇

一式

懷紙台 三三・五×三四・七×二三・八

耳盥(径) 二七・九×(高) 一七・三

福井藩医三崎家伝来の化粧道具で、鏡台・懷紙台・耳盥のほか、鏡箱・櫛・白粉刷毛・鬢付刷毛・おはぐる刷毛・五倍子粉入・潼子・粉白粉・水碗などが付属している。

福井市 三崎玉雲氏贈

⑮黒蠟色塗地秋草虫模様蒔絵針箱・袖机

針箱 二一・三×二三・〇×一五・四

一具

袖机 三〇・五×八三・〇×三四・四

松平慶民(春嶽嫡男)夫人、幸子(明治二十四年)昭和二



十三年)の輿入道具である。

幸子は、新田男爵家の生れ。井上馨の養女となり、明治十四年(一九一)松平慶民に嫁した。

福井市春嶽公記念文庫蔵

④村梨子地葵紋散菖蒲流水模様蒔絵目録箱  
四〇・七×一〇・五×八・八  
一合

越葵文庫蔵

④金梨子地葵紋散桐唐草模様蒔絵色紙箱  
二三・五×二〇・八×六・〇  
一合

越葵文庫蔵

④梅に鶴模様蒔絵文箱  
二一・二×六・五×四・七  
一合

福井市春嶽公記念文庫蔵

④金沃懸地朝顔模様蒔絵パイプ  
長八・五  
一点

松平春嶽の手廻りの品。

福井市春嶽公記念文庫蔵

④卵形蒔絵香箱  
高八・五  
一合

箱書に「明治十八年六月廿九日加賀国人木谷藤十郎呈慶永(花押)」とあり、木谷藤十郎より松平春嶽へ贈られたものである。

寄託品

④七面鳥蒔絵小額  
二三・〇×二〇・〇  
一額

箱書に「美術会御買上品 拝領 大正三年慶民」とあり、

大正天皇侍従であつた松平慶民(春嶽嫡男)の拝領品。

寄託品

装身具

④海浜岩鷺蒔絵印籠  
八・二×六・九×一・九  
一腰

「観松齋(花押)」の銘がある。文政十年(一八二七)五月、福井藩士中根雪江が藩主松平斉承より拝領の品。

寄託品

(箱書)

文政十年丁亥五月江戸御発駕前御手自拝賜

但 昨年御家督御初 緒ノ馬腦

官位被為蒙候義ニ付 根附焼物

并当年御初入旁被下之 翁面

一腰

④金沃懸地松鶴鹿図蒔絵印籠  
八・八×四・七×二・二

「い一齋久孝作(花押)」の銘がある。天保九年(一八三八)十一月二十三日、福井藩主に就任した松平春嶽(時に十一歳)が、生家田安邸より越前松平家へ引移りの朝、就封御礼のため江戸城に登り、伯父にあたる前將軍家斉と従兄にあたる將軍家慶に拝謁の際、親しく拝領したものである。儒臣高野真齋の箱書がある。

福井市春嶽公記念文庫蔵

(箱書)

此薬盆者

文恭大君之所賜 令公也前此 諦観公之逝也継嗣当自幕

府入而立乃先邀 公於田安第而入 幕府 大君見 公内  
殿自腕所佩以賜令 公佩之遂遣入我藩邸実天保九年十一  
月廿三日也今歳春 公命臣進記其由於此且曰斯賜也蓋  
出於特例而非他賜之此者宜謹藏以伝諸後世也已

弘化四年丁未春二月 文学臣高野進謹識

「家譜」百七十七 天保九年十一月廿三日条(抄) 越葵文庫

大御所様御居間江再被爲召御腰二被爲提候御印籠  
を上意有之慶永様御腰江大御所様御手自御提被遊

⑤4 金沃懸地堅田落雁蒔絵印籠

一〇・〇×五・六×三・二

一腰

「青雅堂幸保(花押)」の銘がある。文久二年(一八六二)  
十二月、福井藩士中根雪江が横井小楠を同伴して江戸尾張藩  
邸に赴き、政事総裁職在任中の主君松平春嶽の幕政改革策に  
ついて陳述の際、元尾張藩主徳川慶恕(慶勝)より拝領した  
ものである。雪江の箱書がある。

蒔絵の図柄は、近江八景の一つとして知られる「堅田の落  
雁」を意匠化したもので、湖中に突き出して建つ浮御堂(海  
門山満月寺)を背景とする秋の風情が描かれている。

福井市春嶽公記念文庫蔵

(箱書)

文久二年壬戌十二月十四日横井平四郎同道尾州市ヶ谷邸  
へ参上候節於御馬見所前相公慶恕君拝謁被仰付御懇之  
御意之上御提ヶ被爲在候を御手自被下之但平四郎へハ御  
硯一被下之

⑤5 牧童蒔絵印籠

八・五×五・五×一・八

一腰

「梶川作(印)」の銘がある。慶応四年(一八六八)五月、  
福井藩士中根雪江が徴士参与職を免ぜられるに当り、明治天  
皇に拝謁後、拝領したものである。

寄託品

(箱書)

慶応四年五月三日昨日辨事役所より御達ニ付今日辰半刻  
非蔵人口より徴士休所へ伺候之処午後二至リ辨事坊城侍  
従殿俊章大原左馬頭殿重朝御指引ニ而於小御所御対面被  
仰付御椽頬へ参り奉拝龍顔退去夫より同所御廊下ニ而中  
山前大納言殿忠能正親町三条前大納言殿実愛徳大寺大納  
言殿実則御列席中山殿御達御書附左之通

中根雪江

徴士参与職被免賜御暇候事

五月

中根雪江

兼而勤王之志不薄就中御政務御一新ニ付官代へ出仕勉  
勵之段神妙之至被思召候依之爲勤勞之賞賜此品候猶何  
時被爲召候義も可有之候間此旨可相心得事

五月

赤地金欄 一卷

御印籠 一 此御箱へ入

御盃 三ツ組

右坊城殿御取渡し被爲頂戴

雪江師質謹

⑤6 牡丹孔雀模様蒔絵印籠

九・〇×五・五×二・〇

一腰

銘「梶川作（印）」

⑤7 山水模様蒔絵印籠

九・〇×五・〇×三・〇

銘「梶川作（印）」

⑤8 入船模様蒔絵印籠

八・五×四・五×二・三

銘「寿鶴斎久孝」

⑤9 唐獅子牡丹模様蒔絵印籠

八・五×四・五×二・七

銘「松花斎正常作」

⑥0 群鶴模様蒔絵印籠

九・五×五・〇×二・八

銘「白松山（印）」

⑥1 松に鶴模様蒔絵印籠

九・〇×五・〇×二・八

⑤6、⑥1は、いずれも松平家伝来の品。

寄託  
一腰品

寄託  
一腰品

寄託  
一腰品

寄託  
一腰品

寄託  
一腰品

寄託  
一腰品



調査協力

左記の方々から貴重な御助言・御協力を賜  
りました。厚くお礼申し上げます。

(敬称略・順不同)

大塩八幡宮(武生市) 福井県教育委員会  
三国神社(三国町) 武生市教育委員会  
瑞源寺(福井市) 三国町教育委員会  
心光寺(小浜市) 小浜市教育委員会  
安泰寺(松岡町)

編集担当者

編集

学芸員

西村英之  
" 足立尚計

蒔絵の名品とその意匠

発行 平成四年一月  
編集 福井市立郷土歴史博物館

〒910 福井市足羽一丁目八番二六号  
電話(〇七五)三五二八四五

印刷 河和田屋印刷株式会社

福井市立郷土歴史博物館